

令和5年度
大阪市NPO・市民活動
企画助成事業

報告書

学習プログラム事例集

まちづくり・市民学習応援コース

子育て・家庭教育応援コース

大阪市教育委員会

大阪市立総合生涯学習センター
(指定管理者:大阪教育文化振興財団・SPS共同事業体)

令和5年度 大阪市NPO・市民活動 企画助成事業 実施団体・事業一覧

はじめに

社会の急激な変化に対応し、市民が人間性豊かな生活を営むために、現代的社会的課題や、地域社会の課題解決に向けた主体的な学習機会の創出が生涯学習に求められています。

大阪市では、生涯学習を通じて現代的社会的課題に取り組む市民グループやNPOなどを対象に、地域課題解決の学習プログラムを公募し、実施経費の助成や広報、報告会の開催などの活動支援を行うため、「大阪市NPO・市民活動企画助成事業」を実施しています。

事業の運営にあたっては、実施団体相互のネットワークづくりに留意し、広く事業効果が得られるよう進めるとともに、成果については、区や地域(教育コミュニティ)で活用できるプログラムとしてとりまとめ、プログラムの活用促進を図っています。

令和5年度はAコース(まちづくり・市民学習応援コース)5団体、Bコース(子育て・家庭教育応援コース)3団体の計8団体に事業を委託しました。

本報告書は、それぞれの団体の取り組みをまとめたものです。本事業が、生涯学習のネットワークの広がりや、市民の生涯学習の新たな展開へとつながることを期待しています。

令和6年3月

大阪市教育委員会
大阪市立総合生涯学習センター

Aコース



まちづくり・市民学習応援コース

| 団体・グループ名 | 事業名 | |
|-----------------------|--|-----|
| 全国生涯学習音楽指導員協議会 大阪支部 | 音と箏と大正琴～OTO TO KOTO TO TAISYUUGOTO～ どんな音がするのでしょうか?? | … 4 |
| 特定非営利活動法人ジェイズ・マス・クワイア | 音楽による心の癒しプログラム | … 6 |
| あべのって学生部(あべのって) | 学生の学びたいをかなえる あべのって学生部 | … 8 |
| 脳トレ体操音楽クラブ | 脳トレ体操音楽教室 | …10 |
| 識字・日本語センター | 学び、楽しみ、交流しよう 識字学習者のくらしと料理から考える多文化共生 | …12 |

Bコース



子育て・家庭教育応援コース

| 団体・グループ名 | 事業名 | |
|-----------------|-------------------------------|-----|
| 一般社団法人ニコウェイ | 子ども食堂併設 café*nico* | …14 |
| AKINAIKIDS | アキナイキッズ | …16 |
| 特定非営利活動法人あゆみらいず | 発達障がいのある児童とその家族を支える人のための研修会事業 | …18 |



音と箏と大正琴 ~OTO TO KOTO TO TAISYUUGOTO~ どんな音がするのでしょうか??

全国生涯学習音楽指導員協議会 大阪支部

- 事業のねらい**
- ①日本の伝統文化である「箏」と日本で発明された「大正琴」。同じ「こと」という字が付くがどんな違いがあるかを実際に触れて学ぶ。
 - ②それぞれの楽器の楽譜の違いを感じながら演奏する。
 - ③音楽を通じて異世代交流をし、他の世代の理解を深める。

対象 小学4年生以上
どなたでも

定員 20人

申込者数 17人

参加者数 17人
(のべ33人)

1 8/20(日) 10:00~11:30
「お箏と大正琴は何が違うの?・爪ってなぁに?・音はどうしたら出るの?・音を出してみましよう」

講師 吉岡 寛子((公社)大正琴協会所属昌流大阪支部大東地区長)
伊藤 雅寿美((公財)生田流正派邦楽会大師範【自団体会員】)
橋本 雅楽八恵((公財)生田流正派邦楽会大師範【自団体会員】)
渡辺 桂子((公社)大正琴協会所属昌流大阪支部京阪地区長【自団体会員】)

会場 大阪市立総合生涯学習センター第1研修室

参加者数 11人



2 8/27(日) 10:00~11:30
「自分で箏爪をつけよう・ピックを持って曲を弾こう」

講師 吉岡 寛子
伊藤 雅寿美
橋本 雅楽八恵
渡辺 桂子

会場 大阪市立総合生涯学習センター第1研修室

参加者数 12人



3 9/3(日) 10:00~11:30
「きれいな音の秘訣~キレイな音の研究をしよう~」

講師 吉岡 寛子
伊藤 雅寿美
橋本 雅楽八恵
渡辺 桂子

会場 大阪市立総合生涯学習センター第1研修室

参加者数 10人



参加者の声

- 学校でも習うことが無かったので実際に体験できたのが魅力だった
- 短時間で曲が弾けるようになり嬉しかった。
- 楽器の歴史や仕組みが知れて面白かった。

学習の総括



● 事業実施にあたっての工夫

事業実施体制・組織づくりについて

- ・募集方法は電話・FAX・メールに加え、QRコードよりGoogleフォームでの募集も行った。また、申込者への連絡はメールと携帯電話で出来るようにした。
- ・自団体会員も協力しやすい箏と大正琴のワークショップを行った。
- ・箏爪・ピックは個人専用とし、大正琴は鍵盤などを使用者自身が除菌シートで拭くなど、衛生面に細心の注意を払った。
- ・ボランティア保険に加入し、使用することなく無事終了した。

事業全体の計画、学習内容・形態について

- ・オンライン講習会が近年増えているが、対面での講座を重視した。楽器の台数に制限があるので2グループに分け、交代で箏と大正琴の演奏を体験した。
- ・練習曲は親しみやすい「ほたるこい」「さくらさくら」を選曲した。
- ・ミニ音楽講座で演奏体験以外の音楽知識をサポートした。
- ・体験した内容を成果発表し、皆で合奏することで参加者の一体感を持たせた。

地域や他団体・組織との連携について

- ・学習センターでの交流会に参加し、他団体との情報交換や共通する接点を探した。どのようなニーズがあるのかを会話の中でリサーチし、興味のある活動を見せて頂いた。

● 事業実施の成果と課題(地域の課題解決につながったか)

- ・普段触ることのできない楽器を演奏することができる機会を設け、また箏と大正琴は全く違う楽器ということも伝えることで、地域の音楽文化向上に繋がった。
- ・箏と大正琴どちらも専有して楽器を弾けたことは満足度が高かったと思われる。
- ・市内の公共機関にチラシを置かせていただけただけで、幅広い広報活動が出来た。
- ・チラシは一目で内容がわかる工夫が大切だと実感した。
- ・演奏技術をしっかりと学んでほしいと思い、3週連続の日程で行ったが、申込の状況など3回続けた参加方法は今後の課題となった。
- ・小学4年生から大人までの幅広い世代で募集し異世代交流も含めて計画したが、参加者が大人だけだったのは残念だった。

● 事業実施後の展望

- ・箏と大正琴に興味を持ってくださったので、これからもいろいろな楽器に触れる機会を作っていきたいと思う。

全国生涯学習音楽指導員協議会 大阪支部

| | | | |
|---------------|--|---------------|--|
| 活動目的 | 生涯学習の視点に立って住民の幅広い音楽学習ニーズに応じ、地域の活性化、音楽文化向上を主な目的とする。 | 活動紹介 | (公財)音楽文化創造と連携し、邦楽、洋楽の専門家で組織されている団体。邦楽、洋楽一体となった演奏活動を行い、また地方自治体・学校・音楽団体などと連携し、幅広い音楽の指導・提案を行っている。 |
| 活動開始時期 | 2004年8月 | 団体構成員数 | 20人 |
| | | 団体HP | http://nwosaka.o.oo7.jp/ |

音楽による心の癒しプログラム

特定非営利活動法人ジェイズ・マス・クワイア

事業のねらい 現在全国で30～64歳の鬱病発症者が推計61万3千人、また大阪だけでも約5万人以上いる。募集した一般参加者と鬱病などの精神障がい者に対しオンラインで、また配信だけでなく、実際に集まれる会場で、一般参加者との交流をしながら音楽教育を実施する。

対象 どなたでも

定員 20人

申込者数 20人

参加者数 20人
(のべ75人)

1 7/8(土) 11:00～13:00 「精神向上のための基礎発声教育」

講師 小西 明子(介護福祉士 音楽講師)
会場 田辺Gospel House+オンライン 参加者数 10人

2 8/5(土) 11:00～13:00 「曲の歌詞の意味を学習する音楽と詩による教育」

講師 小西 明子
会場 田辺Gospel House+オンライン 参加者数 10人

3 9/9(土) 11:00～13:00 「曲になじむメロディ歌唱学習 1」

講師 小西 明子
会場 田辺Gospel House+オンライン 参加者数 12人

4 10/14(土) 11:00～13:00 「曲になじむメロディ歌唱学習 2」

講師 小西 明子
会場 田辺Gospel House+オンライン 参加者数 14人

5 11/11(土) 11:00～13:00 「曲の歌唱とコーラスのマッチングを学習」

講師 小西 明子
会場 田辺Gospel House+オンライン 参加者数 14人

6 12/23(土) 11:00～13:00 「クリスマスソングもみんなで歌おう」

講師 小西 明子
会場 田辺Gospel House+オンライン 参加者数 15人



参加者の声

- オリジナルの曲もあって自分だけの曲という意識が持てた。
- 歌はカラオケしか行ったことがなかったので、とても新鮮でした。
- 曲がよかった。音楽と歌唱の勉強になった。

学習の総括



● 事業実施にあたっての工夫

事業実施体制・組織づくりについて

ボランティアスタッフ3名と広報1名で事業を運営し、講座は介護福祉士の講師と助手の2名で実施した。

当法人主旨に賛同する会員による組織構成によって、地域の人々とのコミュニケーションを広げていった。特にPTA関係の人との交わりによって、徐々に学校にも周知出来た。

事業全体の計画、学習内容・形態について

事業は毎月1回、計6回にわたって音楽授業を開催。音楽講師と助手という2名体制、ワークショップ形態で授業を実施。また地域の一般参加者と精神障がい者、児童も交じって開催した。

地域や他団体・組織との連携について

地域の社会福祉協議会や区役所などにチラシを置いてもらうなどの広報協力を依頼した。

● 事業実施の成果と課題(地域の課題解決につながったか)

地域の鬱病の人達に対する音楽による「心の癒し」が課題だったが、一般参加者と交流しながらの授業実施によって、引きこもり者が事業実施会場に来るということが具現化できた。また楽しい音楽授業による事業開催によって、地域の活性化ができた。

課題は鬱病の人などに対する周知、告知を今後どのように広げていくかということである。

そのための更なる地域での活動と人脈形成に力を入れて行く所存である。

● 事業実施後の展望

この事業を通年定期化し、益々地域に音楽による「心の癒し」を実現化していきたい。更なる鬱病による引きこもり者の減少、また子どもたちの音楽教育に努めたい。

特定非営利活動法人ジェイズ・マス・クワイア

- 活動目的
- 1、保健、医療または福祉の増進を図る
 - 2、社会教育の推進を図る
 - 3、まちづくりの推進を図る
 - 4、学術、文化、芸術またはスポーツの振興を図る
 - 5、子どもの健全育成を図る

活動紹介 音楽教育を通じた精神障がい者の回復事業を中心にイベント実施など

活動開始時期 2002年1月

団体構成員数 36人

団体HP <https://jaye-sing.com/>



学生の学びたいをかなえる あべのって学生部

あべのって学生部(あべのって)

事業の
ねらい

“地域や社会でもっとチャレンジしたいけれど、その入り口となる機会に出会えず、一步を踏み出せずにいる学生が実はたくさんいる”と高校生から聞いた一言がこの企画のキッカケとなる。あべのってでもつないできた、地域でのいろいろな動きに興味や関心を持つキッカケを、もっと学生たちにもその場を広げていくのがこの取り組みとなる。また、学生がより多く地域での学びの機会に触れるチャンスを得られるよう、会場とオンラインの混合型で行う。

対象

阿倍野区在住・在学の
学生はじめどなたでも

定員

10~15人
/各回

申込
者数

のべ35人
(大人2人 学生33人)

参加
者数

のべ30人
(大人2人 学生28人)

1

8/6(日) 13:00~15:00
【みんなで学ぶグラフィックレコーディング】

講師 多田 裕亮(グラフィックファシリテーター)

会場 あべのながや六 参加者数 4人



2

8/23(水) 13:00~15:00
【0から学ぶイベント開催講座】

講師 小岩 美幸(シェアスペース兼エステサロン経営・地域イベント等運営)

会場 あべのキューズモール4階つどいのひろば 参加者数 6人

3

9/29(金) 19:00~21:00
【ボードゲームを体験してゲームの可能性を考えてみよう!】

講師 加藤 遼(ボードゲームカフェ&ショップ デザート*スプーン店主)

会場 ボードゲームカフェ&ショップ デザート*スプーン 参加者数 6人



4

10/21(土) 13:00~15:00
【パーソナルカラー診断で自分を知ろう!】

講師 岡田 花枝(心理士)

会場 シェアキッチン&スペースbotan 参加者数 9人

5

1/6(土) 16:00~18:00
【ちよどい家庭料理を学ぶ!】

講師 上野 賢治郎(Mrs.Rakushitai店主)

会場 シェアキッチン&スペースbotan 参加者数 5人



参加者の声

- イベント運営される方に聞いてみたかったことをたくさん聞いてよかったです!
- 楽しく勉強できました!ありがとうございました!
- 料理を楽しんでみようという気持ちになりました。

学習の総括



● 事業実施にあたっての工夫

事業実施体制・組織づくりについて

今年度より、広報や当日の撮影係を大学生にお願いし、インタビュー動画など新しい方法で効果的に広報することができた(動画での広報時にはSNSからの参加が2名あった)。

事業全体の計画、学習内容・形態について

昨年度と違い、各回で完結する多種多様な講座を開催した。興味のある分野の講座に参加して楽しみながら学んでいただくことで、学生同士で話をしたり、講師と話したりが気軽にできるような雰囲気となった。

地域や他団体・組織との連携について

事業内容や告知を他の地域団体などに協力を仰ぎ、大人の方へも活動自体を知ってもらうきっかけとした。

● 事業実施の成果と課題(地域の課題解決につながったか)

1日完結の講座にしたことで、参加する学生の幅やSNSからの参加などは広がったが、それから継続してこれからの活動に参加するという学生は残念ながら現れなかった。また、地域の高校生などが気軽に参加出来、継続的にコミュニティに参加してほしいという目標にはまだ達していない。高校や教員へのアプローチももう少し必要だったように思う。

● 事業実施後の展望

2年間の講座開催を通して、参加学生には内容はおおむね好評であったが、一人一人の関心・ニーズが多様であることもあり、学生に受けてもらう講座ではなく、学生が教える講座(例えばSNSや広報、スマホの使い方、学校で研究している事等)の方が、地域の方とのかかわりも増えるのではないかと感じる。また、学校や教員などへのアプローチもしやすいように感じる。さまざまな学校や地域から学生が集まっている学生部の特色を生かし、そういったことも考えていきたい。

● その他

講座を含め、継続して活動していく中で、あべのって学生部を居場所とらえている学生も増えてきた。その中で、活動内容の幅を広げるのか特化していくのか、学生たちと話し合いながら、最適なあり方を模索していきたい。

あべのって 学生部

活動目的 学生が地域活動に興味を持つ・参加する機会を増やす

活動紹介 学生が集まりやすい時間に月一度、学生と地域の大人が集まりやってみたいことやつながりたい人、困っていることなどを気軽に話す場を開いている。また、学生から出てきたやってみたいことやアイデアについて、関係機関との折衝や企画のサポートを行っている。

活動開始時期 2021年12月

団体構成員数 20人

団体HP https://note.com/abeno_gakuseibu



脳トレ体操音楽教室

脳トレ体操音楽クラブ

事業のねらい 頭と体を同時に動かすことで、脳の働きが活性化され、運動機能の向上、認知機能の低下予防が期待できる。さらに専門家の講習により、健康寿命を延ばすための知識を得ることを目的とする。

対象 どなたでも

定員 20人
/各回

申込者数 のべ38人

参加者数 のべ41人

1 8/6(日) 13:30~15:30
「自宅でできるセルフケア」+脳トレ歌体操

講師 大塚 康介(鍼灸整体師)/実技:脳トレ体操音楽クラブメンバー
会場 大阪市立難波市民学習センター第1研修室 参加者数 4人

2 9/3(日) 13:30~15:30
「お薬の飲み方、扱い方」+脳トレ歌体操

講師 赤井 啓人(薬剤師)/実技:脳トレ体操音楽クラブメンバー
会場 大阪市立難波市民学習センター第1研修室 参加者数 4人

3 10/1(日) 13:30~15:30
「フランス文化より学ぶ有機栽培、地産地消」+脳トレ歌体操

講師 牧野 奨(フレンチシェフ)/実技:脳トレ体操音楽クラブメンバー
会場 大阪市立難波市民学習センター第1研修室 参加者数 5人

4 11/5(日) 13:30~15:30
「歌が上手くなる方法」+脳トレ歌体操

講師 庄司 優歌(音楽講師)/実技:脳トレ体操音楽クラブメンバー
会場 大阪市立難波市民学習センター第1研修室 参加者数 15人

5 12/3(日) 13:30~15:30
「健康的な生活習慣」+脳トレ歌体操

講師 竹中 亮介(臨床工学技士)/実技:脳トレ体操音楽クラブメンバー
会場 大阪市立難波市民学習センター第1研修室 参加者数 13人



参加者の声

- 体を動かしたり、大声で笑ったりして楽しかったです。
- 知らなかったことや、知っていると聞いていたことが、きちんとわかって良かったと思いました。
- 健康については、とても身近なお話で、ためになりました。



学習の総括



● 事業実施にあたっての工夫

事業実施体制・組織づくりについて

参加者が健康寿命を延ばし、楽しみを見出すことで、人生の充実感を向上できるように、交流を深められる場を意識してスタッフで作った。

事業全体の計画、学習内容・形態について

実技の脳トレ歌体操は身体を動かしながら楽しむことができるので、不安感や緊張感を軽減し、ストレスを発散させることができる。そこにスタッフが会話を投げかけることで、参加者とのコミュニケーションが促進できた。

講座の前半は健康に関する講義、後半は脳トレ歌体操の実技という形式で実施した。後半の実技では、一部ゲーム性を持たせ、チームを作ることで、参加者同士の団結を図ることができた。

地域や他団体・組織との連携について

今後、地域の他団体や組織と連携してボランティア活動などを実施していきたい。

子どもの施設、病院、老人介護施設などを中心に活動の輪を広げていきたい。

● 事業実施の成果と課題(地域の課題解決につながったか)

事業終了後に参加者から継続的に開催して欲しいとの要望がかなりあり、地域の高齢の方が気軽に楽しめる機会が必要だとわかった。

今後の課題としては、問い合わせが多かったにも関わらず、前半は参加者が少なかったため、時期、場所、時間など見直しが必要と感じた。『脳トレ』と銘打ったため、『頭を使うクイズか?』との問い合わせがあり、表題も再度考えていかねばならないと考えている。

● 事業実施後の展望

事業終了後も継続して開催して欲しいとの要望を受け、今後はボランティアとして事業を継続する。また、ボランティアとして地域に関わることで、地域活性化を図りたい。

● その他

今回参加者の最高齢は91歳の方だった。足を運んで参加いただき、本当に嬉しく思った。

脳トレ体操音楽クラブ

活動目的 レクリエーションを通して、地域の健康づくりに貢献し、子どもから高齢者、男女すべての人々の健康づくりのサポートを目的として、心身ともに健康で感動的に過ごすお手伝いをする。

活動紹介 医学的なエビデンスに基づく、健康づくり(脳トレ体操音楽)やレクリエーションを通して、人と人とのコミュニケーションを促進している。

活動開始時期 2023年2月

団体構成員数 5人

団体HP なし



学び、楽しみ、交流しよう 識字学習者のくらしと 料理から考える多文化共生

識字・日本語センター

事業のねらい 識字・日本語教室参加者や地域住民が集い、交流し、励ましあえる機会とする。加えて「我がこと」としての多文化共生について考える機会とする。識字・日本語教室では学習者を中心にともに学ぶことを大切にしてきた。現在は「教える・教えられる」関係が固定化している教室が増えてきた。相互学習の豊かさを事業を通じて伝え、教室活動に生かせるよう学習活動プログラム開発につなげる。学習者が地域社会において、主体的に参画・発信していく機会とする。

対象 どなたでも **定員** 30人 **申込者数** 185人 (大人183人 子ども2人) **参加者数** 179人 (大人177人 子ども2人)

1 8/26(土) 11:00~13:00
「識字から見える暮らしと料理・ベトナム料理」
講師 グエン・ファン・ホン・タム(日之出よみかき教室(木曜日)学習者)
会場 淡路中学校 **参加者数** 21人

2 9/30(土) 11:00~13:00
「識字から見える暮らしと料理・ブラジル料理」
講師 坂口 みどり(浅香識字・日本語教室学習者)
会場 浅香会館・ゆいま〜るの家 **参加者数** 19人

3 10/21(土) 11:00~13:00
「識字から見える暮らしと料理・かすうどん」
講師 國島 カツ子(生江識字教室学習者)
会場 グループホームよつば **参加者数** 14人

4 11/21(火) 18:00~20:00
「識字から見える暮らしと料理・土手焼きときざみ」
講師 床本 百合子(松原更池識字学校学習者)
会場 松原市人権交流センター(はーとビュー) **参加者数** 74人

5 12/23(土) 11:00~13:00
「識字から見える暮らしと料理・おでん」
講師 木本 久枝(住吉輪読会学習者)
会場 住吉住宅集会所 **参加者数** 27人

6 2/3(土) 13:30~16:30
「おしゃべりをとおして考えよう『識字運動と多文化共生』」
講師 グエン・ファン・ホン・タム
坂口 みどり
北井 三恵(生江識字教室学習者)
床本 百合子
木本 久枝
会場 大阪教育大学・天王寺キャンパス **参加者数** 24人
※1/27(土)開催予定だったが、進行役が参加できなくなったため、日程を延期



参加者の声

- タムさんの日本に来てからの話を聞いて、家族3人で教室を第2の家族として捉え、識字のみんなとのつながりが生活の中でなくてはならないものになっているのがよくわかりました。
- 講師が作ってくださった料理を高校生から大人まで一緒にいただきながら、当時の部落地域に住んでの食文化や生活にまつわるお話をたくさん聞かせてもらうことができました。はじめて聞くことも本当にたくさんあり、とても勉強になりました。
- 外国人にとって、いろいろ学ぶことがあるので、こういう風な機会がとても役に立ちます。生活のあらゆる面について、日本人と交流することができて嬉しいです。

学習の総括



● 事業実施にあたっての工夫

事業実施体制・組織づくりについて

府下・市内の5つの識字・日本語教室に依頼し5回の講座を開催した。開催に当たっては識字・日本語センター事務局と各教室の担当者で事前の打ち合わせを行い、事業の趣旨、ねらい、全体の実施体制を十分共通理解したうえで実施した。そのうえで、第6回の講座では実施した5教室の講師に再度集ってもらい、参加者ととも講座を振り返り、総括的な話し合いを行い、今後の識字・日本語教室の取り組みにつないだ。

事業全体の計画、学習内容・形態について

会場となった教室の学習者を中心に、参加者全員で料理を作り、一緒に食べることを通じて交流を深めた。料理は講師となった学習者の母国の料理や、その地域でよく食べられている料理を作ってもらった。食事の後は、講師の話を中心に、部落差別問題、外国人差別問題、障がい者差別問題など、人権問題を話しあったり、これまでの日本での生活の苦勞や、識字・日本語学習の楽しみや苦勞を話しあったりした。

地域や他団体・組織との連携について

実施に当たっては、識字・日本語連絡会、大阪市内識字・日本語教室連絡会とも連携し、広報活動への協力を得た。また、実施した教室の地域の運動体にも協力を呼びかけ、地域の人々の参加を呼びかけてもらった。

● 事業実施の成果と課題(地域の課題解決につながったか)

50年以上の歴史を持つ教室も多いが、まだまだ地域の人々にその存在が知られていないところがある。今回の取り組みでは、区役所でのチラシの配架や広報誌に載せてもらうなどして、各地域で活動している識字・日本語教室の存在を市民にアピールした。またこの講座は改めて部落差別問題を考える機会となり、同時に外国人隣人との共生を図り、多文化共生の街づくりを進める機会となった。広報活動はかなり行ったが、地域からの一般参加者はあまりいなかった。まだまだ在住外国人にも日本人にも識字・日本語教室を知ってもらう取り組みを進める必要がある。

● 事業実施後の展望

識字・日本語センターとしては、今後も各地域における識字・日本語学習のサポートをするために、情報発信や学習機会の提供などに努めていく。

識字・日本語センター

活動目的 大阪における識字・日本語学習活動の推進

活動紹介 識字・日本語教室の支援(資料紹介、学習機会の提供と紹介、教室間の交流の推進、等)、関係機関への参加

活動開始時期 2002年4月 **団体構成員数** 8人

団体HP <https://www.call-jsl.jp/>





子ども食堂併設 café*nico*

一般社団法人ニコウェイ

事業のねらい コロナ禍で子ども食堂が激減したタイミングで活動を開始し、地域社会と一緒に子育てできるようなコミュニティを確立し、孤立せず安心して暮らせる市となることをねらいとして活動しています。

対象 小・中学生 **定員** ワークショップ各5人 **申込者数** ワークショップ69人 (大人27人 子ども42人) **参加者数** ワークショップ67人 (大人26人 子ども41人) 子ども食堂479人

1 ~ **4**
7/16(日)、9/17(日)、11/19(日)、1/21(日) 11:00~14:00
【子ども食堂併設イベント】

講師 一般社団法人ニコウェイ スタッフ及びボランティア他
会場 ぐるぐるそだつながや **参加者数** 479人

5 7/16(日) 10:00~11:00
【香るスライム作り】

講師 古木 ちえこ(エッセンシャルオイルスタイリスト)
会場 ぐるぐるそだつながや **参加者数** 3人

6 7/16(日) 12:00~13:00
【レジンチャーム作りのワークショップ】

講師 西田 美保(リビネイルワークショップ)
会場 ぐるぐるそだつながや **参加者数** 2人

7 7/16(日) 14:00~15:00
【日本語学校の生徒と一緒に音遊びをしてみよう】

講師 澤井 美智子、大阪みなみ日本語学校の生徒
会場 ぐるぐるそだつながや **参加者数** 7人

8 9/17(日) 10:00~11:00
【ママのためのおしゃべり会】

講師 岩柿 里奈(保育士) 松村 順子(心理カウンセラー2級)
会場 ぐるぐるそだつながや **参加者数** 0人



参加者の声

- ワークショップは親子で参加できて、とても楽しい時間を過ごせました！
- ボランティアスタッフの皆さんがとても優しいです♪
- 毎回このイベントを楽しみにしています！

9 9/17(日) 12:00~13:00
【絵本カバーをレッツ!リメイク】

講師 堤添 祥子(ぴょん吉文庫)
会場 ぐるぐるそだつながや **参加者数** 8人

10 9/17(日) 14:00~15:00
【Happy バスボム作り】

講師 古木 ちえこ
会場 ぐるぐるそだつながや **参加者数** 7人

11 11/19(日) 10:00~11:00
【絵本作りに挑戦!】

講師 守沖 あや(絵本作家)
会場 ぐるぐるそだつながや **参加者数** 5人

12 11/19(日) 12:00~13:00
【新聞紙と100均材料で簡単クリスマスリース作り】

講師 堤添 祥子
会場 ぐるぐるそだつながや **参加者数** 13人

13 11/19(日) 14:00~15:00
【『辰年』年賀状 筆文字ワークショップ】

講師 古木 香遊(書の教室しおん主催)
会場 ぐるぐるそだつながや **参加者数** 7人

14 1/21(日) 10:00~11:00
【1時間で弾ける!初めてのウクレレ体験】

講師 笹井 涼太郎(クレヨンアーティスト)
会場 ぐるぐるそだつながや **参加者数** 3人

15 1/21(日) 12:00~13:00
【初めての「茶道体験」チャレンジしよう!】

講師 津田 加珠美(寺子屋たんぽぽ)
会場 ぐるぐるそだつながや **参加者数** 5人

16 1/21(日) 14:00~15:00
【キレイは指先から♡キッズネイルも!】

講師 関本 もえの(先生ときどきネイルリスト)
会場 ぐるぐるそだつながや **参加者数** 7人

学習の総括



● 事業実施にあたっての工夫

事業実施体制・組織づくりについて

保護者の方は一緒に参加することで、子どもとのコミュニケーションの機会を持つことができ、見守りながら少し羽を伸ばしてホッとできるような形で実施できるよう工夫した。

事業全体の計画、学習内容・形態について

子ども食堂イベント内でのワークショップに関しては、講師の方との連携をとり、イベントの主旨に合うよう子どもがメインで楽しんでもらえる内容を考え、企画した。

地域や他団体・組織との連携について

地域との連携については、開催地区全域の回覧板への挟み込み、掲示板への貼り出しをお願いしており、町会の方とやりとりしながら、活動の周知に協力をいただいている。

平野区社会福祉協議会とも連携をとり、今の活動の現状や今後の活動の展開についても相談し、アドバイスを仰いでいる。

食材に関しては、平野区社会福祉協議会を経由しての企業からの寄付、こどもの居場所サポートおおさかからの物資提供などの協力をいただいている。

● 事業実施の成果と課題(地域の課題解決につながったか)

毎回実施しているアンケート調査では、子どもたちへのカレーの無料の配食と共に、フードパントリーへの需要のご意見がとて多くあり、実際にイベント開催直後にフードパントリーは品切れとなることが多く、必要性を強く感じている。

今後は、企業から提供いただいた余剰食材だけでなく、他のルート(近隣のお店の余剰や、一般の方からも寄付を募るなど)も検討していこうと考えているが、安全面をどうするかが課題だと感じている。

● 事業実施後の展望

子ども食堂を通じて、たくさんの方とお話する機会があり、困窮した状況下の子どもたちの学習や経験の機会が、一般家庭よりも少なくなってしまうという現状を感じている。子ども食堂イベントでのワークショップを無料開催にしていることで、子どもたちがいろんな経験を気軽に楽しむことができ、そこから何かに興味を持ったり、生きる活力に繋がったりするような、ワクワクが詰まったイベントになるよう、今後も反省と改善を繰り返して、地域に根付いた活動にしていきたい。

一般社団法人ニコウェイ

活動目的 孤立せず安心して暮らせるコミュニティ作り

活動紹介 子ども食堂併設イベントを2ヶ月に1度開催

活動開始時期 2021年7月 **団体構成員数** 15人

団体HP <https://r.goope.jp/nicoway/>





アキナイキッズ

AKINAIKIDS

事業のねらい 子どもたちが大人と一緒に自ら商品を考え、作り、売って、買う。商いを通して自分がやりたいことを見つけたり、人と関わりを持ったり、ワクワクしながら資源の循環と社会の仕組みを知る機会を作る。
事業を通じて、子どもたちが夢を見つけてたくましく生きていける人に成長して欲しいと考えている。

対象 主に小学生

定員 8人 / 講座

申込者数 のべ106人

参加者数 のべ106人

1 9/3(日)9:30~13:00 「手作り雑貨(メモスタンド体験)」

講師 上野 敦子(ハーバリウム講師)
会場 β本町橋 参加者数 5人

2 9/3(日)13:30~17:30 「バスボム作り体験」

講師 亀谷 由美(手作り雑貨、お菓子教室講師)
会場 β本町橋 参加者数 6人

3 9/3(日)9:00~12:00 「野菜で建築を学ぶアート体験」

講師 細田 まきえ(建築士)
会場 日の本寝具イベントフロア 参加者数 4人

4 9/10(日)9:00~12:00 「針金アート体験」

講師 辻本 克彦(針がねアート講師)
会場 日の本寝具イベントフロア 参加者数 7人

5 10/1(日)14:00~15:00 「アキナイキッズ ダンス体験」

講師 近江 あや(HIPHOPダンス講師)
会場 もりのみやキューズモールBASE 参加者数 30人

6 10/1(日)10:00~17:00 「アキナイキッズこども商店街」

会場 もりのみやキューズモールBASE 参加者数 54人



参加者の声

- 商品の作り方を知ることができてよかった。
- マーケット当日はたくさん声を出して、売れたのが嬉しかった。
- 地域イベントに参加して、エリアを超えて子育て世代と交流ができて良かった。

学習の総括



●事業実施にあたっての工夫

事業実施体制・組織づくりについて

- ・事務局メンバー3人、ボランティアリーダー3人。
- ・週1回程度定期的にミーティングを開催し、念入りに準備を行った。
- ・講師および会場、その他参加者・保護者と密に連携を図った。

事業全体の計画、学習内容・形態について

- ・子どもが商いを通じて成長できるように、製作物の原価計算から販売価格までを学べる内容とした。
- ・販売できるクオリティの商品作りを講師から教わり、実際に製作、販売まで行った。
- ・マーケットでの販売経験を通じて、子どもたち自身、商いに対する興味が湧いた。

地域や他団体・組織との連携について

- ・船場地区の有志、関心者とともに運営を行い、地域全体で子ども達の活動をサポートした。
- ・地域の参加者の保護者など一般からボランティアを募集し、当日運営に関わっていただいた。

●事業実施の成果と課題(地域の課題解決につながったか)

- ・地域ぐるみで子どもを育てていく、1つのモデルケースになった。
- ・アキナイキッズという活動が地域で広まり、子ども達を中心に子育て世代の地域のイベント参加を促すことができた。

●事業実施後の展望

- ・活動のエリアを広げ、様々な地域と子育て世帯を繋げ、広げていきたい。

AKINAIKIDS

活動目的 子どもたちが商いを通じて、自らの将来を考えるきっかけづくり

活動紹介 子どもだけのマーケットの開催と実施に向けた商品考案・製作の講座の開催

活動開始時期 2021年8月 団体構成員数 5人 団体HP <https://akina-kids-proect.jimdosite.com/>

発達障がいのある児童とその家族を支える人のための研修会事業

特定非営利活動法人あゆみらいず

事業のねらい 事例検討会は具体事例を参考に意見交換ができる形での研修会を通じ、児童への適切な専門的支援の方法を具体的に学び、知識を具体的な支援に結び付けられることがねらいである。保護者の我が子への理解についてのブラッシュアップや、教員の支援についての実践的な知識として活用してもらうことを想定している。ギフティッド講習会は、ギフティッドの概念を広く知ってもらうことを目的としている。

| | | | | | | | |
|----|-------|----|-------------------------------------|------|----------------------------------|------|----------------------------------|
| 対象 | どなたでも | 定員 | 事例検討会 24~60人 ギフティッド講習会 60人 | 申込者数 | 事例検討会 92人 ギフティッド講習会 57人 | 参加者数 | 事例検討会 80人 ギフティッド講習会 56人 |
|----|-------|----|-------------------------------------|------|----------------------------------|------|----------------------------------|

事例検討会

「発達特性により困り感のある子どもへの具体例を通じた支援検討会」

- 7/14(金) 10:00~12:00
【第1回 事例検討会】
 講師 伊丹 昌一(梅花女子大学心理学教授)
 会場 阿倍野区社会福祉協議会 参加者数 23人
- 8/7(月) 10:00~12:00
【第2回 事例検討会】
 講師 伊丹 昌一
 会場 大阪市立阿倍野市民学習センター 参加者数 11人
- 9/5(火) 10:00~12:00
【第3回 事例検討会】
 講師 伊丹 昌一
 会場 リュスティ 参加者数 15人
- 10/2(月) 10:00~12:00
【第4回 事例検討会】
 講師 伊丹 昌一
 会場 阿倍野区社会福祉協議会 参加者数 15人
- 1/26(金) 10:00~12:00
【第5回 事例検討会】
 講師 伊丹 昌一
 会場 大阪市立阿倍野市民学習センター 参加者数 16人

ギフティッド講習会

- 8/6(日) 10:00~12:00
【第1回 ギフティッド講習会】
 講師 澤田 伸子(あゆみらいず)
 会場 大阪市立総合生涯学習センター 参加者数 13人
- 9/3(日) 10:00~12:00
【第2回 ギフティッド講習会】
 講師 澤田 伸子
 会場 大阪市立難波市民学習センター 参加者数 15人
- 11/12(日) 10:00~12:00
【第3回 ギフティッド講習会】
 講師 澤田 伸子
 会場 大阪市立阿倍野市民学習センター 参加者数 28人



参加者の声

- 伊丹先生のお話も分かりやすかったし、数人での話し合いの時間に他のお母さんとも濃い話もできて満足でした。学びの気持ちが高まりました。
- 実際のお子さんの事例、特に発達検査を見ながら、特性を紐解くので、学校の先生にも特性を説明しやすくなると思います。もっと勉強したいと思いました。
- ギフティッドに関して直接このようなお話を聞く機会が初めてだったので、今後もっとギフティッドについて社会で理解が深まればよいと思う。思春期や性的こと、大人になった後のことも聞きたい。



学習の総括



● 事業実施にあたっての工夫

事業実施体制・組織づくりについて

平成29年より、「発達障がい児の子育て支援活動」を始め、令和4年よりNPO法人として新たにスタートした。これまで培ってきた大阪府下の「発達障がい児を支援する団体」との連携と、活動に賛同し参加してくれる仲間と共に、組織の管理運営を行っている。

開催にあたり、コロナやインフルエンザの影響もあった為、当日の運営を潤滑に行えるような人員配置を考えた。参加者側も運営スタッフも、子どもがいる方が大多数を占めるため、突然の発病によるキャンセルが出た場合も想定して、当日のスタッフを確保し、変更にも柔軟に対応できるように配慮した。また参加者の安全に配慮し、感染予防対策にも取り組んだ。

事業全体の計画、学習内容・形態について

チラシによる周知が行き届いた後半では参加者数も増え、「発達障がい」や「ギフティッド」への関心が高いことがわかった。参加者層も多様で、保護者の方だけでなく、福祉、教育、医療現場の方にとっても、ギフティッドの成長過程での心の移り変わりや周りにいる同年代の子との関わり方の変化、傍にいる大人がどう接し導いていくのがよいのか、学校選びや余暇の過ごし方、陥りやすい失敗など事例をあげての説明が詳細に散りばめられていたので、深い学びを得られる内容であったと思う。

地域や他団体・組織との連携について

「ギフティッド講習会」実施を聞いたクレオ大阪から、子どもの支援スタッフ向けに同じ講習会をして欲しいと依頼が入り、支援側へのギフティッド周知にも繋がった。

● 事業実施の成果と課題(地域の課題解決につながったか)

「発達障がい」に対する認知と理解は進んできたとはいえ、まだまだ十分とは言えず、周囲の不適切な認識や対応によって大変な思いをしている子どもや保護者がたくさんいるのが現実である。講座全体を通してのアンケートから、発達に障がいをもつ子どもの抱える「生き辛さ」、親が抱える「やり辛さ」を解決するための知識や情報を得ることができた、ひとりで悩まずに思い切って参加してよかった、というご意見を多数いただき、活動の意義を実感することができた。

● 事業実施後の展望

今回の経験を活かした更なる情報発信と学びの場の提供をめざしていく。子育てに必要な地域の情報を共有したり、ホッと一息つけたりする場として、月に一度の座談会を続けながら、共感し合える仲間作り、子育ての孤立防止、子どもたちの「生きやすい」生活環境を整えていくことをめざしていく。

子どもひとりひとりの特性を見極め、長いスパンで見守り、今のその子にあった「オーダーメイドの支援方法」を作るお手伝いができれば幸いである。

特定非営利活動法人あゆみらいず

| | | | |
|--------|---|--------|--|
| 活動目的 | 発達障がい児の子育て支援 | 活動紹介 | 発達障がいへの理解を深め、ケースに応じた支援方法を学ぶことにより、「生き辛さ」を抱えている子どもたちへの助け、また、成長した後の彼らの自尊心や生活を守るための学び、延いては、家族も安心して生活できる社会を実現できるよう、応援している。また、並行して、大学の心理学教授や心理士と協力し、発達障がい児の保護者と支援者を対象にした勉強会、座談会、個別相談会などを行っている。 |
| 活動開始時期 | 令和4年7月 | 団体構成員数 | 46人 |
| 団体HP | https://ayumirise.jimdosite.com/ | | |



中間交流会

令和5年8月26日(土) 10:00~12:00

実施団体同士の交流を目的として、事業計画や各団体の得意なこと、悩み事などを発表・共有しました。また実施団体からの意見をもとに、SNS の活用方法や工夫している点も共有しました。



参加団体の感想・コメント

- ・他団体の具体的な活動内容をお伺いでき、自分たちの活動にも活かしていきたいと思った。
- ・困っていることを、各団体の強みを活かし、winwin で補いあえないかなと思いました。
- ・広報宣伝など自分たちが知らないことを具体的に聞かせていただき参考になった。

実施報告会

令和6年2月17日(土) 10:00~12:00

今年度の実施事業について各団体より報告を行い、今後の活動について有識者よりアドバイスをいただきました。



参加団体の感想・コメント

- ・他の団体の方の活動が聞けたことがとても良かった。有識者の先生のお話もすごく勉強になりました。
- ・皆さんの地道な活動を聞かせていただくのはとても参考になった。アプローチのやり方、自分が気付かなかった観点を気付かせてもらいました。

大阪市NPO・市民活動 企画助成事業 募集について

大阪市NPO・市民活動 企画助成事業の募集のご案内は、総合生涯学習センターのホームページ・SNSや、大阪市内の市民学習センター・区役所・区民情報センター・図書館等で配架予定の募集パンフレットをご覧ください。

大阪市NPO・市民活動企画助成
事業ホームページ

<https://osakademanabu.com/josei/>



大阪市立総合生涯学習センター
Facebook

<https://www.facebook.com/sougoullc/>



令和5年度 大阪市NPO・市民活動 企画助成事業 事業実施の流れ[実績]

- 募集受付…………… 令和4年12月1日(木)~令和5年2月9日(木)
- 個別相談…………… 令和4年12月1日(木)~随時対応
- 有識者会議…………… 令和5年3月24日(金)
- 実施団体への説明会…………… 令和5年4月15日(土)
- 事業の実施…………… 令和5年7月1日(土)~令和6年1月31日(水)

【助成団体の取り組み】

- ・企画・実施の準備
- ・チラシの作成・広報、受講者募集の受付
- ・講座等の実施
- ・アンケート回収
- ・報告書類の作成・提出

【総合生涯学習センターの支援】

- ・実施経費の助成(委託対象経費の75%以内で上限20万円まで)
- ・「いちょう並木」や「いちょうネット」への記事掲載などの広報協力
- ・総合生涯学習センターや阿倍野・難波の市民学習センターの会場確保

●中間交流会の開催…………… 令和5年8月26日(土)

●報告会の開催…………… 令和6年2月17日(土)

お問い合わせ



大阪市立総合生涯学習センター

〒530-0001 大阪市北区梅田1-2-2-500(大阪駅前第2ビル5・6階)

TEL:06-6345-5004 FAX:06-6345-5019

<https://osakademanabu.com/umeda/>

開館時間 午前9時30分～午後9時30分(日・祝は午後5時まで)

休館日 毎月第1・第3月曜日/年末年始(12月28日～1月4日)

令和5年度 大阪市NPO・市民活動 企画助成事業 報告書

編集 大阪市立総合生涯学習センター
(指定管理者:大阪教育文化振興財団・SPS共同事業体)
大阪市北区梅田1-2-2-500

発行 大阪市教育委員会

発行日 令和6年3月